

「スマイル・りんく」活動計画書

2006年5月

いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク

(あいあいネット)

1. 活動の背景

インドネシアでは1990年代前半まで長年の独裁体制の中で、自由なNGO活動・市民活動が制限されてきたが、90年代後半以降、民主化の進展により、各地でさまざまなNGOが活動を活発化している。特に1998年のアジア経済危機をきっかけとして貧困層への支援が重点課題となり、多くのNGOが住民の生計向上や貧困問題に取り組むようになってきている。また地方分権化が進む中では、地域住民が開発に主体的に参加することも課題となっている。しかし多くのNGOは活動経験が浅く、住民へのファシリテーション能力が不足し、その活動基盤・支持基盤も弱い状況にある。

こうした中、「いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク(あいあいネット)」では、JICA(国際協力機構)が実施する技術協力プロジェクト「市民社会の参加によるコミュニティ開発(インドネシア)」に協力して、東部インドネシアで活動するNGOスタッフらの日本での研修受け入れを行ってきた。これまでに計25名が来日し、日本各地のNPO活動や住民主体の地域づくりの活動現場を訪問し、さまざまな交流と学びあいの機会をもってきた。また「あいあいネット」ではこれ以外にも、インドネシアの主に山村で活動するNGOと住民組織と、日本の山村地域で活動するNPO等との交流も進めている。

これらの経験の中から、「日本の市民活動・NPO活動の経験をもっと学び、お互いの関係を深めたい」という要望が現地のNGO活動家たちの間で高まりつつある。またこれまでインドネシアからの研修生を受け入れてきた日本の地域でも、「もう少し継続的にインドネシアと関係をもち、NGOやコミュニティ開発について知りたい」という意識が生まれてきている。

こうしたことから、「あいあいネット」ではこれまで築いてきたインドネシアと日本の市民同士の繋がりをさらに深め、より持続的かつ効果的な学びあいのネットワークを構築する活動として、「スマイル・りんく(インドネシア名・Solidaritas Masyarakat Internasional untuk Lingkar Kerjasama Pemberdayaan = SMILE Link)プロジェクトを立ち上げることにした。

2. 活動の目的

- (1) インドネシアのコミュニティで活動するNGOと日本の地域で活動するNPO・各種市民活動組織とを繋ぎ、双方向の学びあいの交流を生み出す。
- (2) 日本のNPO活動や地域づくりの経験をまとめ、情報発信し、インドネシアの現場で活動するNGOの能力向上に役立てる。

3. 主な活動内容

- (1) 南関東地域（特に東京と横浜周辺）で活動する NPO の事例をインドネシア語で紹介するとともに、インドネシアで活動する NGO スタッフが来日する機会に相互の交流を行う。
- (2) インドネシア・ゴロンタロ州で活動する NGO「LP2G」の活動に協力し、その活動紹介や日本の市民活動との連携を生み出す。また現地の高校生たちと、日本の高校生たちをインターネットで繋ぎ、お互いの学びあいの機会を創り出す。
- (3) JICA の技術協力プロジェクト「市民社会の参加によるコミュニティ開発」に協力して、現地からの研修生の受け入れを企画し、日本の NPO 活動・地域づくり活動の現場訪問と交流プログラムを実施する。

4. 交流の対象となる団体等

<インドネシア>

LP2G（ゴロンタロ州で持続的なコミュニティ開発に取り組む現地 NGO）

Santigi Institute（中スラウェシ州で資源管理と住民主体の開発に取り組む現地 NGO）

LML（南スラウェシ州でコミュニティ開発を実施する現地 NGO）

SINTESA（南東スラウェシ州で参加型開発を辞しする現地 NGO）

Increase（東ヌサトゥンガラ州でコミュニティ開発と NGO 支援を行う現地 NGO）

YMP（西ヌサトゥンガラ州でコミュニティ開発に取り組む現地 NGO）

他、主に東部インドネシアで活動する地元 NGO や住民組織

<日本>

かみえちご山里ファン倶楽部（新潟県上越市で山村の活性化に取り組む NPO）

まちコミュニケーション（神戸市長田区でコミュニティの復興に取り組む NPO）

シャブラニール＝市民による海外協力の会

LIFE（地球の友と歩む会）

他、東京・神奈川の NGO・NPO